

# 1 1. 2022 年度の事故・障害などの発生状況

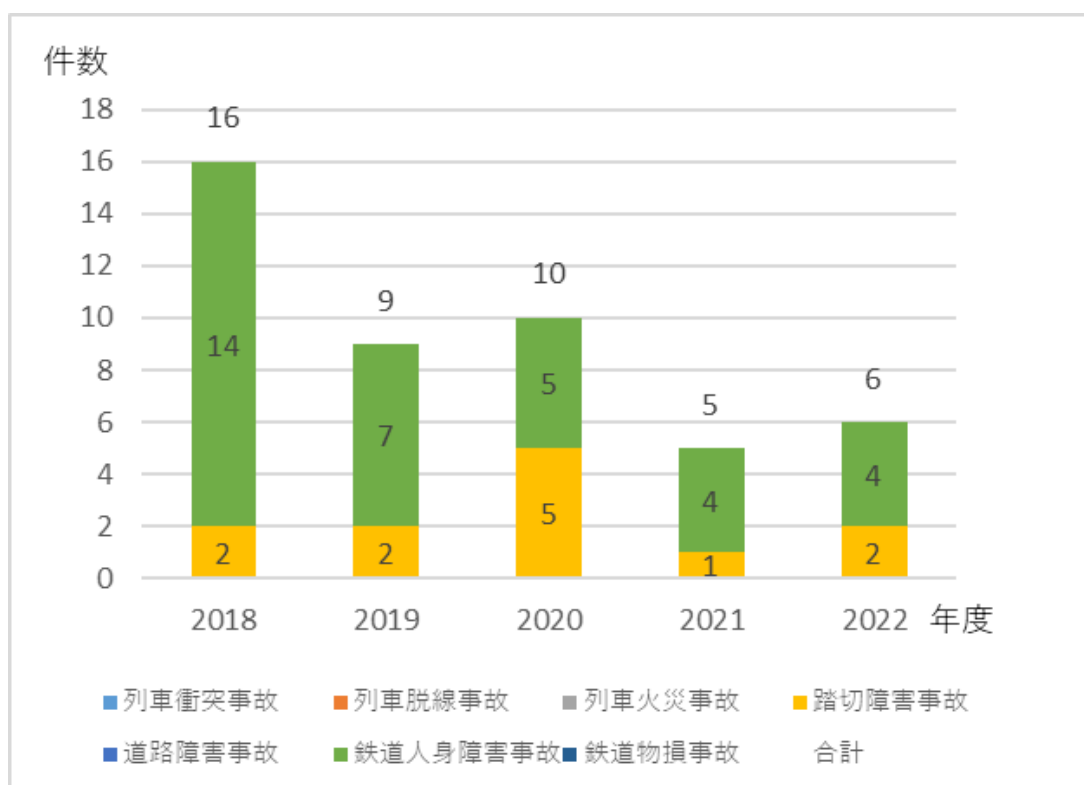
## ▶鉄軌道運転事故

鉄軌道運転事故とは、以下の通り分類された事故です。2022 年度は、踏切障害事故が 2 件、鉄道人身障害事故が 4 件発生しました。その他の鉄軌道運転事故は発生していません。

## ◆鉄軌道運転事故の分類

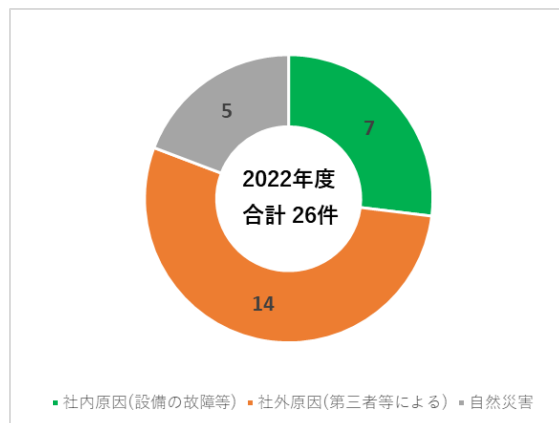
種 類	内 容
列車衝突事故	列車が他の列車または車両と衝突し、または接触した事故をいう
列車脱線事故	列車が脱線した事故をいう
列車火災事故	列車に火災が生じた事故をいう
踏切障害事故	踏切道において、列車または車両が道路を通行する人または車両などと衝突し、または接触した事故をいう
道路障害事故	踏切道以外の道路において、列車または車両が道路を通行する人または車両などと衝突し、または接触した事故をいう
鉄道人身障害事故	列車または車両の運転により人の死傷を生じた事故（上記の事故に伴うものを除く）をいう
鉄道物損事故	列車または車両の運転により 500 万円以上の物損を生じた事故（上記の事故に伴うものを除く）をいう

## ◆鉄軌道運転事故件数の推移（件）



### ▶輸送障害

輸送障害とは、鉄軌道運転事故以外のもので、列車の運転休止または 30 分以上の遅延が生じたものをいいます。2022 年度は、26 件発生しました。



### ▶インシデント・電気事故

インシデントとは、事故には至りませんでした。事故につながる可能性のあった事態をいいます。電気事故とは、感電死傷事故、電気火災事故、感電外死傷事故、供給支障事故のことをいいます。

監督官庁に届け出ることや社内で周知を図ることにより、措置を確実に講じ事故の再発防止に努めています。

2022 年度は、インシデントが 2 件発生しました。(7 ページ参照)

## 1 2. 安全投資

2022 年度は、鉄道設備投資（実績額）44 億円のうち 34 億円を安全関連設備に投資し、変電所移転・更新、6000・7000 系車両のリニューアル、電気設備更新、高架橋耐震補強工事などを実施しました。

2023 年度は、運転保安度の維持・向上やお客さまのサービス向上などを目的として、総額約 101 億円の鉄道設備投資を行います。そのうち、約 64 億円を安全関連設備に投資し、新造車両 13000 系の導入、7000 系車両のリニューアル工事、京阪線列車運行管理システムの更新などを実施する予定です。

2022 年度の主な実績	2023 年度の主な計画
<ul style="list-style-type: none"><li>・寝屋川車庫変電所移転・更新</li><li>・6000・7000 系車両のリニューアル</li><li>・ホーム異常通報装置の更新</li><li>・高架橋耐震補強</li><li>・まくらぎ重量化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新造車両（13000 系）の導入</li><li>・京阪線列車運行管理システムの更新</li><li>・7000 系車両のリニューアル</li><li>・ホームドアの新設</li></ul>